

## H I S 研究会

日時

2024年3月11日(月) 18:00-20:00

会場

法政大学 市ヶ谷田町校舎

所在地：東京都新宿区市谷田町2-33

会場情報



対象者

どなたでもご参加いただけます  
(情報システム学会会員・非会員・学生)  
※お申込が必要です

受講料

無料



テーマ

## 動物行動学からわかる動物が見ている世界と 住民が主体となった農作物被害対策の仕組み

野生動物が人に被害を与えるニュースが多い昨今。動物は「なぜ」そのような行動をするのでしょうか？私たちは人間の常識で動物を誤解してないでしょうか？

人が見ている世界と動物が見ている世界は異なります。行動研究で動物たちに教えてもらった彼らの感覚、運動・学習能力と、それを応用した農作物被害対策技術を紹介します。また、動物の捕獲に依存した個体数調整が主流ですが、捕獲と被害低減はリンクしていません。動物の素顔を理解することなく、人間の視点で、動物を抑えつけようとする対策ではなく、地域の住民たちが動物のことを理解した上で主体的に動くことで農作物被害を減らした実例、仕組みを紹介します。

「本質を捉え、そこに横たわる問題を究明し、そのあり方を改善することを目指す」情報システム学の立場から“人と動物の関係”“人同士の連携”を捉えると、どのような議論が可能となるか、一緒に考えていきましょう。

講師

**江口 祐輔** (えぐち ゆうすけ) 氏  
麻布大学 生命・環境科学部 教授  
フィールドワークセンター長  
おおち山くじら研究所 所長



私は、これまでにさまざまな動物を対象に行動や心理を研究してきました。特に動物の運動・感覚・学習能力について重点的に研究を行っています。人は、ついつい自分（人間）の目線で動物を理解しようとしてしまい、動物に対して間違った認識や評価をしてしまいます。動物の目線で研究を行い、彼らの素顔を知ることで、動物と人とのより良い付き合い方が見えてきます。現在は、動物の行動と心理、そして人の行動と心理を明らかにしながら、野生動物による農作物被害対策技術の開発と、農業や地域づくりのあり方について模索しています。

お申込

右のQRコードを読み込み、申込フォームよりお申込み下さい →  
お申込みフォームURL <https://forms.gle/1NhvzqSG6ftD3Dwe7>  
お申込締切：2024年3月9日(土) 23:59

